

サル被害減少！ イノシシ被害増加！！

平成29年鳥獣被害調査結果報告

市内では、イノシシやサル、シカなどの鳥獣による農作物の被害が大きな問題となっています。その被害額はピーク時の平成22年には1億円を超えたこともありましたが、市では毎年、有害鳥獣の捕獲、防護柵の設置とともに、各地域における被害状況の調査を行い、実態把握に努めています。

鳥獣被害調査結果

平成29年の被害総額は、前年の約1.3倍の4,144万円となりました。平成25年から減少傾向でしたが、今回の調査では増加に転じました。【グラフ①参照】

地域別の被害額をみると、八幡地域では減少しましたが、その他の6地域ではいずれも増加しました。最も被害額が増加したのは高鷲地域で、前年の4倍近い結果となりました。その要因として、イノシシ、シカによる飼料作物、水稲の被害が増加したことが挙げられます。【表①参照】

鳥獣別では、イノシシ・サル・シカによる被害額が全体の約80%を占め、前年同様大きな被害を出しました。なかでも、イノシシによる被害額は1,168万円で全体の28%と、最も大きくなりました。そのほか、ハクビシンによる被害額は前年の約2倍となりました。一方で、ヌートリアによる被害額はごくわずかとなりました。【表②・グラフ②参照】

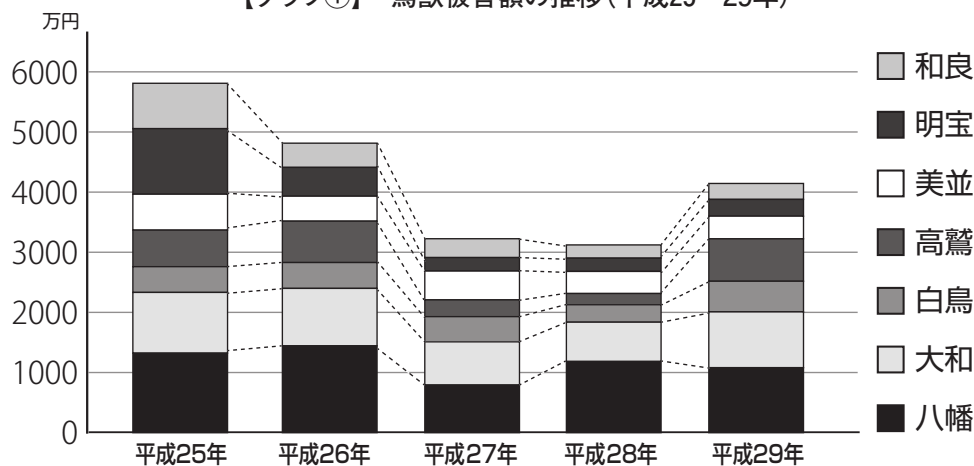
【表①】 地域別被害額

(単位:万円)

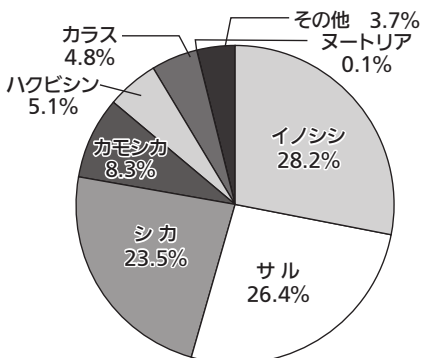
	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年(被害率)	前年比
八幡	1,322	1,444	792	1,184	1,081(50.0%)	91.3%
大和	1,010	955	718	653	927(36.4%)	142.0%
白鳥	428	430	418	290	510(29.8%)	175.9%
高鷲	608	688	280	187	705(40.6%)	377.0%
美並	597	415	479	367	377(48.6%)	102.7%
明宝	1,091	479	225	221	279(39.7%)	126.2%
和良	754	402	313	220	265(42.5%)	120.5%
合計	5,810	4,813	3,225	3,122	4,144	132.7%
被害戸数	1,171戸	1,292戸	1,074戸	959戸	1,236戸	128.9%
一戸当たり被害額	49,617円	37,251円	30,027円	32,554円	33,531円	103.0%
回答率	39.7%	36.0%	39.0%	41.1%	52.6%	128.2%
被害率	44.8%	54.5%	41.9%	36.2%	39.9%	110.1%

※調査票は、市内在住の農事改良組合員を対象として、5,883戸に配布し、3,097戸より回答いただきました。
 ※被害額は、「被害面積(数量)×作物の基準単価」により算出しました。
 ※一戸当たり被害額は、「被害額/被害戸数」により算出しました。
 ※被害率は、「被害戸数/回答戸数」により算出しました。

【グラフ①】 鳥獣被害額の推移(平成25~29年)



【グラフ②】 鳥獣別被害割合



【表②】 鳥獣別被害額

(単位:万円)

鳥獣	平成28年	平成29年	増減額	前年比
イノシシ	609	1,168	559	191.8%
サル	1,211	1,093	-118	90.3%
シカ	611	973	362	159.2%
カモシカ	392	342	-50	87.2%
ハクビシン	94	211	117	225.4%
カラス	117	199	82	169.1%
ヌートリア	20	5	-15	23.6%
アライグマ	0	0		
その他	68	154	86	227.3%
合計	3,122	4,144	1,022	132.8%
一戸当たり被害額	32,554円	33,531円	976円	103.0%

【表③】 作物目別被害額

(単位:万円)

品 目	平成28年	平成29年	増減額	前年比
水 稻	1,352	1,470	118	108.7%
根菜類 (大根、人参等)	390	448	58	114.8%
葉茎菜類 (白菜、ネギ等)	111	154	43	138.7%
洋菜類 (ブロッコリー等)	1	10	9	660.4%
果菜類 (カボチャ、トマト等)	373	571	198	153.2%
豆 類 (大豆、インゲン等)	23	70	47	310.6%
土物類 (ジャガイモ等)	398	342	-56	85.9%
花卉類 (南天等)	52	312	260	604.7%
果物類 (栗、柿等)	210	303	93	143.8%
その他 (牧草等)	211	464	253	220.1%
合 計	3,122	4,144	1,022	132.8%
一戸当たり被害額	32,554円	33,531円	976円	103.0%

作物目別では、水稻の被害額が1470万円(118万円増)で最も多くなりました。この結果は前年同様ですが、被害割合は全体の36%と、前年の43%に比べやや低くなりました。これに、トマトなどの果菜類の被害額が571万円(198万円増)、ダイコンなどの根菜類の被害額が448万円(58万円増)と続きました。

また、最も被害額が増加したのは南天などの花卉類で、312万円(260万円増)となりました。一方、ジャガイモなどの土物類は唯一被害額が減少し、342万円(56万円減)となりました。【表③・グラフ③参照】

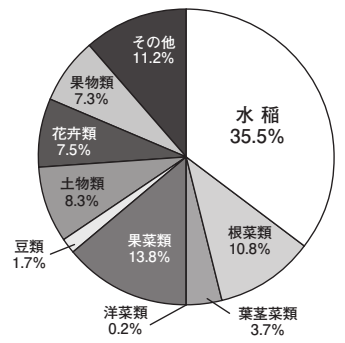
【表④】 被害割合上位3 (鳥獣別・作物目別)

(単位:万円)

	鳥 獣	被害額	割 合	品 目	被害額	割 合	
							八 幡
		サ ル	397	37%	花 卉 類	299	28%
		イノシシ	176	16%	果 菜 類	114	11%
大 和	サ ル	357	39%	水 稻	343	37%	
		イノシシ	193	21%	果 物 類	144	16%
		シ カ	168	18%	果 菜 類	132	14%
白 鳥	イノシシ	192	38%	水 稻	200	39%	
		カモシカ	92	18%	果 菜 類	155	30%
		ハクビシン	65	13%	土 物 類	60	12%
高 鷲	イノシシ	387	55%	その他	389	55%	
		シ カ	198	28%	水 稻	157	22%
		カモシカ	59	8%	根 菜 類	79	11%
美 並	サ ル	163	43%	水 稻	118	31%	
		イノシシ	130	34%	土 物 類	92	24%
		カラス	29	8%	果 菜 類	55	15%
明 宝	シ カ	87	31%	水 稻	140	50%	
		サ ル	74	27%	果 菜 類	38	14%
		イノシシ	57	21%	根 菜 類	34	12%
和 良	シ カ	57	22%	水 稻	189	71%	
		サ ル	54	20%	果 菜 類	29	11%
		ハクビシン	42	16%	果 物 類	16	6%

さらに被害の詳細をみると、鳥獣別では、シカによる被害が3地域、イノシシ、サルによる被害がそれぞれ2地域で最も大きく、品目別では、水稻の被害が6地域で最も大きくなりました。【表④参照】

【グラフ③】 作物目別被害額割合



市の鳥獣被害対策について

市では、農作物鳥獣被害対策として、有害鳥獣の捕獲、防護柵の設置に対する補助等を行っています。

平成29年の主な有害鳥獣捕獲数は、シカ3158頭(884頭増)、イノシシ714頭(282頭増)、サル342頭(9頭減)で、合計捕獲数は過去5年の中では平成26年に次ぐ頭数となりました。しかし、依然としてイノシシ、サル、シカによる被害は大きいため、継続して計画的な捕獲を行っていく必要があります。【表⑤参照】

【表⑤】 有害鳥獣の捕獲状況

(単位:頭)

鳥 獣	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
イノシシ	500	1,058	230	432	714
ニホンザル	161	304	191	351	342
ニホンジカ	1,741	4,081	1,684	2,274	3,158
合 計	2,402	5,443	2,105	3,057	4,214

【表⑥】 各種防護柵の設置距離

(単位:km)

	平成23年度以前の設置距離	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	合 計
簡易電気柵	264.4	23.2	11.0	10.1	5.8	12.8	327.3
その他簡易柵(ネット等)	30.3	3.3	4.9	2.1	0.6	0.8	42.0
恒久柵	40.1	30.6	72.1	19.7	11.4	6.9	180.8
合 計	334.8	57.1	88.0	31.9	17.8	20.5	550.1

鳥獣被害防止用の各種防護柵については、これまでに約550kmの柵が設置されており、延長は毎年延びています。

これらの防護柵に加え、残さの処理や払いなどをあわせて行うと効果的です。また、個々の対策はもちろん、地域ぐるみの対策が望まれます。【表⑥参照】

問 農林水産部農務水産課 (☎67・1835)